基本構想

大山崎町まちづくりビジョン2025

OYAMAZAKI

第１節　策定の趣旨、期間

１－１　策定の趣旨

基本構想：大山崎町まちづくりビジョン 2025 は、社会経済情勢や政治情勢等の変化があったとしても、町民と行政が協力して大山崎町の将来を築くための共通のよりどころとなる、一定期間変わることのない基本的なまちづくりの方向性を示すものとして定めます。

１－２　基本構想の期間

基本構想：大山崎町まちづくりビジョン 2025 の期間は、平成 28 年度（2016 年度）から平成 37 年度（2025 年度）までの 10 年間とします。本ビジョンは、20 年、30 年先の長期をも展望した本町の将来のありたいまちの姿を示すものですが、経年による本町を取り巻く諸条件の変化を考慮するため、一定期間をもって、必要に応じて見直しができるように期間を 10 年間としています。

第２節　まちの将来像

２－１　まちの将来像を考えるにあたって

（１）まちの将来像（ビジョン）とは

まちの将来像（ビジョン）とは、私たちのまち大山崎町の将来のあるべき姿を表現するものであり、本町の最上位の計画である本計画の「最上位の目的」となるまちの姿（状態）を規定するものです。

本町のすべての施策を目的と手段の関係（□□（手段）は○○（目的）のために・・・）と整理していった時に、将来像（ビジョン）は、最終の究極の目的として位置づけられるものです。

（２）将来像（ビジョン）を共有することがなぜ大切か

まちの将来像（ビジョン）（まちづくりの究極の目的）は、関係者が共有することで、多様な人々の行動を１つの方向へ迅速かつ効率的にまとめあげる役割をもちます。そして、疑問や迷いが生じたときには、立ち戻って考える原点となり、意思決定の基準ともなるものです。

（３）大山崎町の将来像を定めるにあたって

本町に関わる多様な人々の多様な価値観を一つの言葉で表現することは、まさに難問といえますが、町民の「きわめて幸福度、満足度の高い状態」と「そこへ至ろうとする姿」を多くの人が共感しやすい言葉で表現することを考えました。

「様々なまちづくりの課題を克服すべく努力した結果、きわめて町民の幸福度・満足度が高くなっている状態を、視覚的にどのように表現するか」
「今後も町民の誇りと愛着の源泉となっていく、このまちの特性をどのように表現するか」
「この計画の基本姿勢である、町民が力を合わせて取り組む姿をどのように表現するか」

このように考えた結果、本町の将来像は、「えがお（笑顔）」というキーワードを中心に、次のとおり定めることとしました。

2－2　まちの将来像

天王山のふもと、三川合流の地　みんなを 笑顔 にするまち

え えとこ、が んばる、お おやまざき

私たちのまち大山崎町は、天王山のふもとに、桂川・宇治川・木津川の三川が合流する地に位置し、「天下分け目の天王山」という代表的な言葉にゆかりのある歴史深いまちであることから、自然と歴史は本町の魅力ある資源であり、この特性は本町の財産といえます。

大都市近郊にありながらも自然が豊かな地域であり、都市的要素と田舎的要素とがうまく融合した環境にあります。住民意識調査でも、町民が望むまちの姿としては「山・緑と川・水に囲まれた自然の豊かなまち」が最も多くなっています。

豊かな自然や歴史と文化に育まれてきた地という本町の特性を生かしつつ、まちづくりの課題を克服しながら、さらに希望と誇りと愛着がもてる住みよいまちを創るために、行政自らの努力はもちろんのこと、住民、企業、団体など、本町に関わるすべての人が自分たちのもつ個性を生かしながら、ともに住みよいまちを築き上げていく必要があります。その努力の結果として、本町に住む人、働く人、訪れる人など、すべての人を「笑顔」にするまちを実現させていきます。

大文字の各言葉には、次のような意味を込めています。

言葉	意味（思い）
笑顔	すべての人の「幸福度」や「満足度」が高い状態。まちづくりの課題やニーズに対応しながら、各施策の目標を達成することで、本町に関わるすべての人を「笑顔」にするまち、町民誰もが「住んでよかった」と思えるまちをめざすこと。この場合の「笑顔」とは、表面的なものではなく、心の奥底から湧いてくるもの。
ええとこ	本町には、天王山や三川合流、自然や歴史・文化といったまちが誇れるものがたくさんあることに加えて、さらに行きたい、住みたい、住み続けたいまちをめざすこと。
がんばる	今のよいところを生かし、課題を克服していく中で、さらによりよいまち（ええとこ）としていくために、行政、町民、地域等が一緒にがんばっていくこと。
おおやまざき	今の「ええとこ」を伸ばし、より一層の「ええとこ」に向けて、みんなで「がんばる」ことで、「笑顔」が生まれる「おおやまざき」をめざすこと。

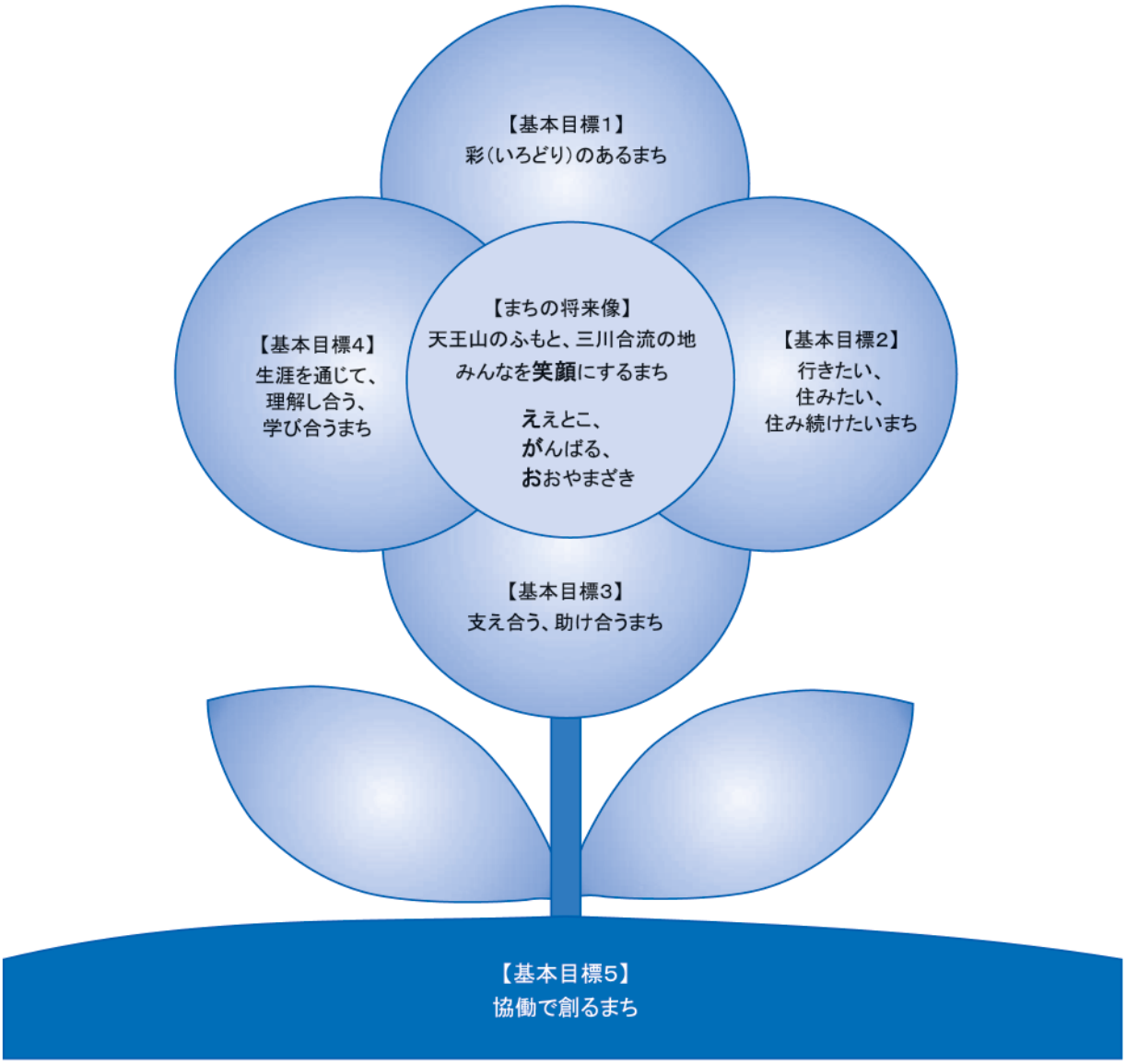
第３節　まちづくりの基本目標

３－１　将来像の実現に向けた５つの基本目標（４プラス１）

まちの将来像「天王山のふもと、三川合流の地　みんなを笑顔にするまち　ええとこ、がんばる、おおやまざき」を実現していくために、５つの基本目標を掲げ、体系的にまちづくりを進めることで、まちの将来像を実現していきます。

５つの基本目標は、「このようなまちにしたい」という、みんなを笑顔にする、まちの情景（シーン）を４つの側面から描写したもの（４つのまちの姿）と、「このようにまちづくりを進めていきたい」という、まちづくりの進め方を示したもの（まちづくりの進め方）から成ります。

【「大山崎町まちづくりビジョン 2025」で定めるまちの将来像と基本目標】



３－２　４つのまちの姿（基本目標１～４）

基本目標１　彩（いろどり）のあるまち

町民のまちに対するイメージである「自然」や「歴史・文化資源」等が大事にされるまち。その資源をきれいに守り、これらの魅力（大山崎町のよさ）を発信することで本町のよさが内外に広まり、誰もが町民であることを誇りに思えるまち。

本町のシンボルである天王山をはじめとした豊かな自然環境や、歴史と交わる四季折々の景観がまちの魅力であり、それらを生かした、より魅力のあるまちづくりをめざします。

基本目標２　行きたい、住みたい、住み続けたいまち

産業、観光によるまちづくりが活発に行われ、様々な人が訪れるまち。町民が安心・安全で生活しやすい、住みやすいまちにすることで、町外の人も住みたくなるまち。

観光による交流促進と商業等のまちおこしで町外の人を迎え入れ、またその人たちが訪れやすいまちがイコール町民にとっても住みやすいまちにつながります。

基本目標３　支え合う、助け合うまち

安心・安全が保たれ、町民の健康と生活を支える様々なサービスが充実しているまち。また、まち全体で支えあえる仕組み、ネットワークが形成されているまち。

住みたい、住み続けたいと誰もが思えるまちとするため、町民の日常生活を支える様々なサービスを充実していくとともに、町民間の支え合いの構築、災害に強いまちを形成し、誰もが安心して生活ができるまちをめざします。

基本目標４　生涯を通じて、理解し合う、学び合うまち

お互いが尊重し合えるまちが形成されるとともに、生涯にわたって、町民すべての学ぶ意欲が満たされるまち。

安心して生活ができるまちを創るために、お互いが理解し、尊重し合いながら、子どもから高齢者まですべての人が学べる、体験ができる、喜びがあるまちづくりを進めます。

３－３　まちづくりの進め方（基本目標５）

基本目標５　協働で創るまち

誰もが暮らしやすい大山崎町にするため、行政だけではなく、町民の参画によるまちづくりが進んでいるまち。安定したまちの運営が実現しているまち。

・町民主体の地域づくり
・町民と行政がともに進めるまちづくり
・まちづくりを支える行政運営（行政の仕組みづくり）

行政の努力はもちろんのこと、そこに住む町民自身がまちの課題を自らの課題として認識しつつ、まちに関わるすべての人によるまちづくりが進むことで、希望と誇りと愛着をもてる大山崎町が形成されることをめざします。